

平成19年度第5回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成20年1月23日(水) 15:00~16:09

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、セドゥーキン委員、太田委員、程委員、岡委員、V・リズィー委員、斎藤委員、小森委員、新城委員
計11名

委員以外：その他事務局職員

4 議事録署名人 新城委員、V・リズィー委員

5 議事

議事の審議に先立ち、角山学長より、1月16日に開催された理事長選考会議で角山学長が次期理事長予定者に選考されたことについて、あいさつがあった。

(1) 議題

A デュアルディグリープログラム選抜審査会設置要綱について

学生部長の太田委員より、配付資料に基づき説明があった。

このことについて、委員より、会津大学から海外の大学へ学生を派遣するメリットについて質問があり、海外の大学の学位を取得することによって、「海外企業への就職の可能性が広がる」「技術指導者として海外で活躍の場が与えられる」など、多様化の時代に対応した人材の育成をはかることができるとの回答があった。

また、日本国内の他大学のデュアルディグリーへの取組状況についての質問があり、詳しい数値のデータはないが、東北大学や早稲田大学などがすでに取り組み始めており、経済産業省や文部科学省でも、国際化を進める取組の一環として、デュアルディグリーを推進するための予算確保を行っているとの回答があった。

その他特に意見等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

B 教員選考委員会の設置について

角山学長より、配付資料に基づき、語学研究センター教授職1名、上級准教授職1名、准教授職2名、合計4名の選考にかかる教員選考委員会の設置について説明があった。

委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

(2) 報告事項

A 大学の運営状況等について

角山学長より、配付資料に基づき、会津大学の基本戦略について説明があった。

委員より、会津大学の研究活動に関するPRの手法について質問があり、角山学長より、高校生に対するPRを重視したいとの回答があった。

また、学外の委員に対し、どのようにPRすれば一般の方に会津大学に興味を持ってもらえるだろうかという質問があり、研究の最先端レベルと学生の日常生活レベルの中間に存在するような話題を取り上げてPRを行うことが効果的であるとの意見や中学生程度のレベルで、科学の楽しさが誰にでも伝わるようなPRが好ましいとの意見があった。

6 その他

A 学外の委員から、大学に対し以下の意見があった。

- ・ 教育研究審議会の中で、毎回テーマを決めて自由に意見交換を行う時間があれば、審議会がより意義深い会議になると思われる。

平成19年度第6回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

- 1 日時 平成20年2月27日(水) 15:03~15:57
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、セドゥーキン委員、太田委員、オーア委員、佐川委員、魏委員、岡委員、V.リズィー委員、斎藤委員 計11名
委員以外：その他事務局職員
- 4 議事録署名人 黒田委員、セドゥーキン委員
- 5 議事
(1) 議題
 - A 会津大学学則の一部改正について
学部長の黒田委員より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に意見等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - B 会津大学履修規程の一部改正について
学生部長の太田委員より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - C 会津大学特別聴講学生規程の一部改正について
学生部長の太田委員より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - D みなし定年退職者について
片平総務グループ参事より、配付資料に基づき説明があった。
このことについて、委員より、みなし定年退職とした場合としない場合の違いについて質問があり、退職金の支給額に違いがあるとの回答があった。
その他特に質問等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - E 会津大学名誉教授の称号授与について
片平総務グループ参事より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、3分の2以上の賛成により原案どおり承認された。
 - F 専任教員の選考について
まず、情報センターの助教候補者である佐藤昭氏について、教員選考委員会委員長の魏委員より、配付資料に基づき説明があった。
このことについて、委員より、佐藤氏の英語能力について質問があり、文章能力は高いが、話すスピードが速くはないとの回答があり、今後プレゼンテーション能力が改善される余地は十分にあるとの回答があった。
次に、ソフトウェアエリアの准教授候補であるガオ・コン氏について、教員選考委員会委員長のミレンコフ委員より、配付資料に基づき説明があった。
このことについて、委員から特に質問等は無かった。
次に、ソフトウェアエリアの助教候補である渡部有隆氏について、教員選考委員会世話人のバーラ教授より、配付資料に基づき説明があった。
委員より、推薦文について、候補者の選考前に提出すべきであるとの意見があった。これに対して、今回教育研究審議会の議題として提案するにあたり、推薦文を用意したとの説明があった。
また、海外の他大学への留学や国内の他大学での経験が必要なのではないかという意見があり、採用後にその経験を積ませれば良いという意見があった。

その後委員による投票が行われ、投票の結果、候補者3名いずれも出席委員の5分の3以上の信任があったため、計3名を選考することとなった。

平成19年度第7回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

- 1 日時 平成20年3月26日(水) 13:30~15:05
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、セドゥーキン委員、太田委員、佐川委員、程委員、岡委員、
V.リズィー委員、斎藤委員 計9名
委員以外：その他事務局職員
- 4 議事録署名人 太田委員、V.リズィー委員
- 5 議事
 - (1) 議題
 - A 会津大学学則の一部改正について
学生部長の太田委員より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に意見等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - B 会津大学大学院学則の一部改正について
学生部長の太田委員より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に意見等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - C 会津大学大学院履修規程の一部改正について
学生部長の太田委員より、配付資料に基づき説明があった。
委員より、大学院履修規程第8条の中の「特定の課題についての研究の成果」とは何かという質問があり、ITスペシャリストのコースは、学位論文の提出を求めておらず、ソフトウェア開発アリーナに関する4編のレポート提出を求めているとの回答があった。
その他委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - D 会津大学教員のテニユア・トラック制に関する規程について
片平総務グループ参事より、配付資料に基づき説明があった。
委員より、制度を導入することにより、会津大学教員の教育研究に対する意欲が高まるという規程第1条の趣旨が理解できず、制度の導入には反対であるとの意見があった。
これに関して様々な意見が交わされ、学長より、採用後に問題があった場合の安全装置として制度を導入する面もあるとの説明があった。
これに対して、法人化の際に外国人教員に対する期限付き任用制度を廃止したのだから現状のままでもよいのではないかとの意見があり、テニユア・トラック制度は管理者側にとってメリットがあるが、テニユア獲得までの間は教員の教育研究活動が消極的になる可能性があるというデメリットもあり、制度導入には慎重になるべきであるという意見があった。
その後、いくつかの議論が交わされ、制度の導入に関する会津大学教員へのアナウンスが不十分であることから今回の審議会での採決を見送るべきとの意見が大勢を占めたため、採決は見送り、部局長会議で再検討することとなった。
 - E 平成20年度公立大学法人会津大学年度計画案について
角山学長より、配付資料に基づき説明があった。
委員から特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
 - (2) 報告事項
 - A 会津大学と会津学鳳高等学校の高大連携について
学生部長の太田委員より、資料に基づき説明があった。
このことについて、委員から特に質問等は無かった。